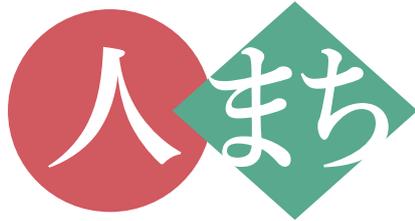


第7回

横浜



デザイン賞 2015

「受賞活動・受賞景観集」

地域まちづくり部門

自ら主体となって創意工夫し、
地域まちづくりを推進している活動

まちなみ景観部門

地域の個性と魅力をつくりだしている
まちなみや建築物等



横浜
人・まち
デザイン賞

横浜市

横浜・人・まち・デザイン賞について

表彰目的

横浜市内での地域まちづくりに関して特に著しい功績のあった活動や、都市景観の創造や保全に寄与したまちなみを構成する建築物等を顕彰して、魅力あるまちづくりをより広く進めていくことを目的としています。

選考基準

【地域まちづくり部門】

横浜市内における、おおむね3年以上の取組実績がある地域まちづくり活動の主体である団体を対象としています。また、表彰対象の活動を支援した個人または団体も表彰します。

- 1) 公共性(地域社会への貢献)が評価されるもの
- 2) 積極性が評価されるもの
- 3) 地域住民等の幅広い参加や他団体との連携が評価されるもの
- 4) 今後の活動の継続性・発展性が評価されるもの
- 5) 創意工夫が評価されるもの

【まちなみ景観部門】

横浜市内の「まちなみ」や「建築物等」で、おおむね10年以内に新しく造られたものや、歴史的建造物等再生されたものを対象としています。

- 1) 地域の個性と魅力にあふれた新しい都市景観の創造に寄与しているもの
- 2) まちの活性化に寄与し、賑わいのある都市景観を形成しているもの
- 3) 歴史的なまちなみ、及び自然景観の保全に寄与し、又はそれらと調和を保っているもの
- 4) 横浜らしさの演出に寄与しているもの
- 5) 都市景観と環境や福祉への配慮などの先進的な取組が調和しているもの

今回の応募状況

◆ 募集方法：募集リーフレットを区役所、地区センター、各鉄道駅、市内大学等で配布

◆ 応募状況：【地域まちづくり部門】43通(36件) / 【まちなみ景観部門】140通(110件)

募集及び選考過程について

【地域まちづくり部門】

1	募集 平成26年5月1日～6月30日まで
2	応募活動の調査 平成26年7月～11月
3	選考委員による事前評価 平成26年11月5日～11月21日
4	選考 平成26年12月4日

【まちなみ景観部門】

1	募集 平成26年5月1日～6月30日まで
2	応募物件の調査 平成26年7月～11月
3	選考委員による現地調査 平成26年12月1日
4	選考 平成26年12月16日

選考委員一覧

【横浜市地域まちづくり推進委員会 表彰部会】

- 山家 京子 神奈川大学工学部建築学科教授
- 岩松 二郎 公募市民
- 川原 晋 首都大学東京都環境学部
自然・文化ツーリズムコース准教授
- 小渡 佳代子 株式会社小渡建築設計室代表取締役
- 吉武 美保子 特定非営利活動法人よこはま里山研究所主任研究員

【横浜市都市美対策審議会 表彰広報部会】

- 佐々木 葉 早稲田大学創造理工学部社会環境工学科教授(景観)
- 金子 修司 横浜商工会議所
- 鈴木 智恵子 エッセイスト
- 関 和明 関東学院大学建築・環境学部建築・
環境学科教授(建築史)
- 竹谷 康生 市民委員

市民の皆様がいいきと明るく豊かな気持ちで暮らせるまち、横浜。このようなまちをつくり上げたのは、まちづくり活動を始めとする市民の皆様の活発な活動や、港や歴史文化、水・緑などを大切にした、魅力ある都市景観にほかなりません。

2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックでは、一部の競技が横浜市でも行われます。この機会を捉え、横浜の魅力を国内外にアピールすることにより、都市としての価値を高め、市民生活の更なる向上や新たな魅力の創出につなげていきます。

今回「横浜・人・まち・デザイン賞」で表彰された方々の「まちづくり活動」や「まちなみ景観」は、まさにこの魅力の一つとなります。その功績が多くの方に伝えられ、皆様が横浜の魅力に誇りを持ち、安心と活力ある将来へのまちづくりが一層進むことを願っています。



平成27年4月

横浜市長 林 文子

第7回 横浜・人・まち・デザイン賞の選考にあたって

【地域まちづくり部門】

第7回横浜・人・まち・デザイン賞の地域まちづくり部門には、自薦他薦合わせて43通の応募がありました。前回同様40通を上回る応募をいただきましたことに感謝申し上げます。活動内容では、過去2回と比較して、環境保全活動や伝統行事・歴史の継承活動が増えたようです。また、まちのルールづくりを通じた活動も見られるようになり、横浜市の「地域まちづくり」のサポートが少しずつ実を結んでいるように思えます。

選考では、全応募43通から重複や要件を満たさない活動を除き、36件を対象に審査を行いました。事前書類審査の上位18件を対象に、投票及び議論を経て、6件の活動を表彰対象とすることを決定いたしました。「地域まちづくり」への熱い思いが伝わる素晴らしい活動ばかりで、非常に難しい選考でした。「何かが足りないからマイナス評価をする」のではなく、「他よりも抜きん出て素晴らしいところはどこか」といった視点で議論しました。結果、選ばれた活動を振り返ると、ひとつのテーマにがっぷり四つで取り組んだもの、あるいは新鮮なテーマを多角的に展開したものなど、いずれも重量感のある活動が選ばれたように思います。

今回、横浜のあちこちで、かくも多彩で充実したまちづくり活動が行われていることに、うれしい驚きと心強さを感じました。すべての「地域まちづくり活動」に改めて敬意を払うとともに、表彰対象となった活動にはその代表としますます充実したものとされますよう期待いたします。

横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会長 山家 京子

【まちなみ景観部門】

第7回を迎えた横浜・人・まち・デザイン賞のまちなみ景観部門は、総数にして140の応募をいただき、重複を除くと110件の各種建物、公園、道、駅などを皆様から推薦いただきました。昨年の推薦物件数が84件でしたので、よりたくさん横浜を彩るまちなみ景観が発掘されたこととなります。応募いただいた皆様に感謝申し上げます。

特に今回は、横浜の18区すべてから応募をいただきました。これまでは中区など都心に偏りがちでしたが、郊外の住宅、公園、駅などの応募が増え、文字通り横浜市の賞として審査をすることができました。これは、まちなみ景観が身近な関心事として市民に浸透してきたことの現れと嬉しく思います。

審査手順は、まず事務局による現地確認をふまえた110件の調査票をもとに審査員が候補を選びます。それをもとに10件の現地審査を行い、日を改めた最終審査会にて委員の投票と議論によって7件を選定しました。

結果的に5件が公共が整備したものとなったことがやや気になりましたが、そこに至るには地域の方々の様々な声やアドバイ스가あったからこそ、優れた成果になったと考えます。そもそもまちなみや景観は、公と民、共と私を越えた概念です。これからも横浜を愛する全ての主体によって、より一層愛着と誇りをもてるまちなみ景観づくりをすすめて行きましょう。

横浜市都市美対策審議会表彰広報部会長 佐々木 葉

京浜臨海部等での 「トンボはドコまで飛ぶかプロジェクト」

活動概要

明治以降、横浜市内でいち早く工業化の進んだ京浜臨海部は、緑の少ない工業地帯だと思われていますが、各事業所の敷地内にはまとまった緑地や貯水池等の水辺が確保されるとともに、トンボ池などのビオトープが造られ、多くの生物が生息しています。

こうした環境をより豊かにしようと、12年間に渡って活動し、トンボを指標とした生態調査に企業が市民、行政、専門家と協働で取り組むことで、生物多様性や企業緑地の質の向上の推進に結び付いています。

表彰理由

京浜臨海部の工業地帯に森が育ち、淡水の水辺も人びとの手によって生まれた。水・緑は潤いをもたらすだけではなく、臨海部と内陸部を結ぶための生きもの回廊（エコロジカルネットワーク）としての役割も期待されている。

水辺を利用するトンボの調査を介して多くの地元企業・市民団体・研究機関・小中学校等が連携協力をすすめることで、京浜臨海部の新たな価値の発掘にもつながった。これからも横浜の町々を俯瞰するトンボ目線で、企業による地域の環境保全への貢献と、人・水・緑をつなぐ活動に期待したい。

〈吉武委員〉



▲生態調査に参加する子供たち



▲水辺の手入れの様子

活動場所 鶴見区、神奈川区の臨海部及び二ツ池、三ツ池公園などの内陸部

活動団体 トンボはドコまで飛ぶかフォーラム

活動団体ホームページ <http://tomboforum.sakura.ne.jp/about.html>

旭中央地区のコミュニティバス 「四季めぐり号」の運行

活動概要

旭中央地区の四季美台の丘陵地は坂道の多い地域で、買い物や通院が不便との声があり、駅前等への交通手段を求めるニーズも多くありました。

そこで、横浜市の「地域交通サポート事業」を活用し、運行委員会が中心になって、コミュニティバスの運行を実現しました。

この取組により、高齢者が安心して外出できるまちにしようという目的が達成されています。

表彰理由

高齢化が進み脱車社会を迎える中、地域の交通手段を公共交通であるバスを活用し、高齢者の外出促進を図り、お互いに顔の見える地域社会を構築している。また、運行委員会とバスの運行事業者が連携して、乗車人数の目標設定やバス運行の方法など、事業性に関する情報をお互いに共有し課題意識を持ち合っている点などが高く評価できる。

高齢化が更に進むことが予想される時代、アンケート調査などにより地域のニーズに対応し、地域が一体となった永続的な運行をめざし活動を展開してゆくことを期待したい。

〈岩松委員〉



▲本格運行記念セレモニーの様子



▲バスの運行ルート



▲支援者との車内掲示物の作成

活動場所 旭区四季美台・今川町・本村町地区

活動団体 コミュニティバス「四季めぐり号」運行委員会

活動を支援した個人または団体 二重交通株式会社
片岡公一

金沢区でつくられる風景 ふるさと大道村

活動概要

金沢区大道小学校の敷地内に地域住民と協力して、「子どもたちが自然の中で豊かに生き物と接して遊ぶことができるように」と願いを込めて、トンボ池、水車、あずまや、井戸などをつくりました。

古民具等に触れられる「むかし資料館」も整備され、くつろぎの空間となっています。

大道の原風景が再現され、ふるさとの自然を楽しめる環境が守られています。

表彰理由

3代続いて大道小学校に通った、という家族が珍しくない地域。テレビでも紹介されたことのある「トンボ池」は自慢だ。その池が危機的な状態になったことで会を結成し、ヨコハマ市民まち普請事業に応募、水を汲み出す上総掘りの井戸や、大道の昔の風景を再現した。校内にはコミュニティハウスや歴史資料館などもあり、高齢者が子どもたちといっしょに活動してふるさと意識を育てていく場となっている。

学校施設が地域の拠り所として利用され、子どもも老いも若きも笑顔が広がる活動の輪に拍手を送りたい。
〈吉武委員〉



▲トンボ池の手入れの様子



▲「むかし資料館」での講座

活動場所 金沢区大道(大道小学校内)

活動団体 ふるさと大道の風景をつくる会

**活動団体
ホームページ** <http://daidomura.web.fc2.com/>

**活動を支援した
個人または団体** 特定非営利活動法人 横濱金澤シティ
ガイド協会
川老人会

環境意識を高め、歴史も知る 大豆戸菊名打ち水大作戦

活動概要

大豆戸菊名用水路(菊名川)は、現在では暗渠になっています。その川を「打ち水で再現しよう」と始められた取組は、地球温暖化への対策に加え、参加する子どもたちや町内会など地域での環境意識向上も図られるイベントに発展しています。

そのほか、小学校や公園での「大豆」の育苗・観察、自然エネルギー施設の見学会などを通じ、まちづくりと環境学習の啓発が進められています。

表彰理由

地域の諸団体の老若男女が、「打ち水」を機会に約200人集まる道路空間は、人と人の繋がり創設し、地球温暖化防止の意識を高めたまちづくりのきっかけづくりになっている。特に地域の歴史に目を向け、エコな生活を考え、子どもたちも参加しやすい活動へ取組が広がりを見せている点や、地域の連携が生まれていることは、「地域まちづくり」のソフトづくりに貢献している。

また、井戸水を使うなどの創意工夫等も評価した。これから企画されるワークショップなどの展開も大いに期待したい。
〈小渡委員〉



▲打ち水の様子



▲「大豆」の苗の植付作業

活動場所 港北区大豆戸町周辺

活動団体 大豆戸菊名打ち水大作戦実行委員会

**活動団体
ホームページ** <http://kikunagawa.net/wp/>

深谷台地域でのエリアマネジメント 地域課題の解決を实践

活動概要

戸塚区のドリームハイツでは、地域の諸課題を自ら解決していくことを目指して地域運営協議会を設立し、子育てやひとり暮らしの不安解消に取り組んできました。

その取組は複数の主体が協働する「市民主体の地域運営」の核へと発展しました。

ここでは、地域の課題解決に向けて、「参加できる場」があります。

表彰理由

団地の少子高齢化に伴う諸課題に対して、多世代が水平的関係の中で取り組むための多くの工夫が伝わってきた。地域の16団体が、日常的に顔が見える交流関係を築き課題の発掘や設定を行って推進していることや、地域のポータルサイトの積極的な運営により、まちづくり情報の発信と地域の総意づくりに意識的であること等である。

また、見守りネットセンター（電力使用状況に着目した実験）やアフタースクール（放課後自習教室）、プレイパーク等、持続の仕掛けと活性化の仕掛けの両方が見られ、住宅地の地域運営のモデルとして評価したい。

〈川原委員〉



▲地域運営についての活発な意見



▲活動内容について市長と意見交換

活動場所 戸塚区深谷町

活動団体 深谷台地域運営協議会

**活動団体
ホームページ** <http://drsansan.jp/>

泉区いちょう団地での生活相談や学習支援 多文化共生の实践

活動概要

いちょう団地には、外国につながる人が多く住んでいます。当初は関わることの必要性を感じた数名の学生が日本語教室の運営により支援し、現在では多言語での諸課題に対応できるようになりました。

多様な文化背景を持った人たちが個性を出し合い、ともに楽しく暮らせる「まち」をつくるという目的に向かって、活動に取り組んでいます。

表彰理由

1994年開始の日本語教室を基礎に、「多国籍の人々が住むまち」の課題を強みや魅力に変えていこうという気概さえ感じる、多様な活動への展開が素晴らしい。日本語の不得意な方への日本語学習、生活相談といった個人へのサポートに加え、防災活動や祭りなどの地域運営の基本になる活動や、趣味をテーマに人々をつなぐ活動など、まさに「まちづくり」の広がりを持っている。また、多くのボランティアが参画できる体制作りや工夫がみられる。

「多文化」を認め合い個性を活かすこの取組は、多国籍の町でない地域でも大いに参考になろう。

〈川原委員〉



▲学習支援活動の様子



▲まつりでは救護訓練を実施

活動場所 泉区上飯田町ほか

活動団体 多文化まちづくり工房

**活動団体
ホームページ** <http://tmkobo.com/>

霞橋

概要

新山下運河に架かる橋長32.8mの単純プラトラス橋です。

歴史的価値が高かった旧江ヶ崎跨線橋の解体部材を再利用し、支間長を半分にして短い橋に組み直しました。格点や対傾構、支承などといった、オリジナルの特徴的な意匠や構造をできるだけ生かしたデザインとしています。

講評

1896(明治29)年、日本鉄道土浦線(現常磐線)隅田川橋梁として造られ、その後、1929(昭和4)年、新鶴見操車場の江ヶ崎跨線橋として移築された。2009(平成21)年に一旦撤去されたが、2013(平成25)年、新山下運河の道路橋として再生、100年を超えていまなお現役である。英国Handyside社製プラトラス形式の鋼鉄道橋として、創建当時は最先端であった技術を示す歴史的建造物であり、いまも近代初期の雰囲気が色濃く残る水辺空間に在って、現代の都市景観におけるシンボルとなっている。(関委員)

所在地 中区新山下



- 〈事業者・工事監督〉横浜市
- 〈設計者〉株式会社オリエンタルコンサルタンツ
- 〈施工者 上部工製作・架設〉北日本機械株式会社
- 〈施工者 支承リフレッシュ〉日本鑄造株式会社
- 〈施工者 下部工工事〉土志田建設株式会社
- 〈施工者 取付道路工事〉中鉢建設株式会社

横浜地方気象台とブラフ99ガーデン

概要

【横浜地方気象台】

創建時は神奈川県測候所の震災復興事業として、1927(昭和2)年に建設されました。山手地区の歴史的景観と調和し、気象台機能を刷新するため、有識者による保存検討会と建築家・安藤忠雄氏の設計により既存庁舎の保存・復元、耐震改修と増築を行い、2009(平成21)年に完成しました。

【ブラフ99ガーデン】

2014(平成26)年4月に開園した広場で、山手の洋館の前庭をイメージし、1年を通して花や緑を楽しむことができます。

石積みの擁壁「ブラフ積み」を歴史的な景観要素として一部公園内に再現しています。

講評

かつて西洋人がブラフと呼んだ山手の丘には、花が咲乱れる緑豊かな庭に西洋館が建ち並んでいた。その系譜は今に引き継がれ、山手の洋館の庭をイメージした公園「ブラフ99ガーデン」は、隣の山手のランドマーク横浜地方気象台旧館の姿を際立たせて、山手らしい景観が誕生した。

気象台のリニューアル整備時に増築された新館は歴史的建造物の旧館に調和したデザインであり、山手で昔から用いられている石積みの擁壁「ブラフ積み」も保存され、歴史的景観を形成している。ブラフ積み擁壁は公園でも一部再現され、山手らしさを演出している。(鈴木委員)

所在地 中区山手町



◀横浜地方気象台



◀ブラフ99ガーデン



【横浜地方気象台】

- 〈事業者・工事監理〉国土交通省関東地方整備局
- 〈設計者〉安藤忠雄建築研究所
- 〈施工者(建築)〉大和小田急・三木経常建設共同企業体
- 〈施工者(電気設備)〉扶桑電機株式会社
- 〈施工者(機械設備)〉足立工業株式会社
- 〈施工者(EV)〉ダイコー株式会社

【ブラフ99ガーデン】

- 〈事業者〉横浜市
- 〈設計者〉創和エクステリア株式会社
- 〈施工者〉石山造園株式会社

神奈川大学 横浜キャンパス 3号館

概要

住宅地内にあるキャンパスの導入部にあたる場所に立地した、地上4階・地下2階の建物です。建物内には吹き抜けのアトリウム空間があり、ミュージアム機能を備えた展示ホールが併設されています。

建設にあたり、学内の建築学科教員を中心としたワーキンググループを構成し、基本構想やデザイン監修を行いました。

講評

見晴らしの良い場所に建つ明るく軽やかな校舎。閑静な住宅地と共生するシンプルなフォルムは丘上の光と風を孕んでいる。キャンパスの入口で学生を誘う3号館は、既に地域に公開されていた広場に建設され、屋内のアトリウム空間を通り抜けて、キャンパス内の中庭へと通じる開放的な建物である。

旧3号館は山口文象率いるRIAによる大学総合計画の嚆矢となった記念的校舎。その系譜を引き継ぎ、地域へ開かれた大学の顔として、大学の歴史や日本常民文化研究所の民具資料を紹介する「神奈川大学展示ホール」を併設し、一般の来訪を待っている。
〈鈴木委員〉

所在地 神奈川県六角橋



写真:シウ企画



- 〈事業者〉学校法人神奈川大学
- 〈設計監修〉神奈川大学工学部建築学科／キャンパスワーキンググループ（室伏次郎・重村力・内田青蔵・山家京子・曾我部昌史・中井邦夫・古谷洋平）
- 〈設計監理〉横浜市建築設計協同組合
- 〈施工者〉鹿島建設株式会社 横浜支店

横浜ベイクォーター

概要

「ヨコハマポートサイドA-3街区プロジェクト」として進められた大型商業施設であり2006（平成18）年に竣工しました。運河沿いの立地を活かした魅力的な空間の中には、インテリア関連やレストラン&カフェ等のテナントが入り、2009（平成21）年には横浜ベイクォーターと一体利用可能な「横浜ダイヤビル」が竣工しました。

講評

横浜駅東口のポートサイド地区、港に続く臨海部に計画された楽しい商業施設である。飲食を中心とし、物販などの多くの店舗が集積され、海に張り出すように作られた曲面を持つ開放的なテラスがデザインのポイントとなり、みなとみらい21地区を借景に横浜の新しい臨海部の景観を創出している。

シーバスの乗り場が併設され、休日には山下公園やみなとみらい21地区への海上交通の手段として活用されて回遊性を高めている。隣接する高層の住居棟の完成などにより人気スポットとして賑わいも増し、活気あるゾーンとなっている。臨海部再開発の成功例として評価される。
〈金子委員〉

所在地 神奈川県金港町



- 〈事業者〉三菱倉庫株式会社
- 〈管理運営〉横浜ダイヤビルマネジメント株式会社
- 〈商業プロデュース〉株式会社北山創造研究所
- 〈基本設計〉株式会社K計画事務所
- 〈基本設計・実施設計・設計監理〉株式会社三菱地所設計
- 〈実施設計・施工〉株式会社竹中工務店

旧伊藤博文金沢別邸

概要

金沢区の野島公園の中にあり、1898(明治31)年に初代内閣総理大臣伊藤博文の別邸として建築されましたが、老朽化が激しかったため、2009(平成21)年に現存しない部分を含め創建時の姿に復元しました。

庭園からは海が一望でき、四季折々の花を楽しむことができるなど、市民の憩いの場になっています。

講評

「著名人の別荘である歴史的建物」という建築文化財の評価ではなく、「海辺の居心地のよい場所の共有」という観点から高く評価したい。八景島の歴史と現代が融合した景観を臨み、海苔^{ひび}に海の恵みを知り、丹誠込めた牡丹の花や松の木を愛で、日本家屋の落ち着きを味わう。人と自然が時間をかけてつくり上げてきた文化の深さは、訪れた人々に共有されることで、さらにまた新しい魅力をこの場所に重ねて行くだらう。〈佐々木委員〉

所在地 金沢区野島町



- 〈事業者〉横浜市
- 〈調査・設計・監理〉株式会社建文
- 〈外構設計〉株式会社戸田芳樹風景計画
- 〈復元工事 建築〉馬淵建設株式会社
- 〈復元工事 電気設備〉藤電設工業株式会社
- 〈復元工事 衛生空調設備〉株式会社光電社
- 〈外構工事〉株式会社錦光園
- 〈展示工事〉株式会社オフサイド
- 〈指定管理者〉公益財団法人横浜市緑の協会

横浜公園

概要

1876(明治9)年に開園した歴史ある都市公園です。2008(平成20)年から4年をかけて行われた第5次再整備工事では、バリアフリー化、利便性・安全性の向上、緑被率のアップが図られました。

公園を彩るチューリップは約16万球にのぼり、開花の時期には多くの人々で賑わいます。

講評

ハマッ子にとってなじみ深い都市公園である。横浜開港以来の歴史に語られる様々な変遷をたどり現在の姿を見せている。春先には毎年色鮮やかなチューリップの花が新聞紙上を飾り、開港記念日のパザーやスタジアムの野球で賑わう。さらには日本大通りと一体となったあり方は、まさに横浜市民の憩いの場であり、歴史を語るシンボルとなっている。

周囲の擁壁には初期のスクラッチタイルが残る。2009(平成21)年に国の近代化産業遺産に認定され、丁寧なリニューアル整備も整い、公園としての魅力をさらに高めている。〈金子委員〉

所在地 中区横浜公園



- 〈事業者〉横浜市
- 〈基本設計〉環 計画事務所
- 〈実施設計〉株式会社農村・都市計画研究所
- 〈施工者〉横浜庭苑株式会社
- 〈施工者〉藤・田澤建設共同企業体
- 〈施工者〉藤造園建設株式会社
- 〈施工者〉堀江造園株式会社

東横フラワー緑道

概要

みなとみらい線と東急東横線の相互直通運転に伴い、地下化された東白楽駅から横浜駅間の跡地を「東横フラワー緑道」として整備を進め、2011（平成23）年に完成しました。

現在は、沿線市民により複数の緑道・公園愛護会が結成され、緑道の清掃、広場や緑道を利用したイベントなどの活動を行っています。

講評

東横線の地下化により不要になった鉄道路線をたくみに公園に作り上げ出来上がった緑道公園で、換気塔も景観に合わせてデザインされている。昔は東横線のガード下はごちゃごちゃとした飲み屋街だったと聞いていたが、それが今では美しいまちなみになり、新しい建物も次第に緑道の方を向いて建てられ、統一された景観が形成されつつある。さらには緑道運営管理委員会が結成され全体の環境の維持管理を、そして緑道沿線に3つの公園愛護会が生まれ、ごみ拾いや花壇の手入れを住民の力で進めている。

「おらが街の、愛されている公園」として誇らしげな姿が良い。〈竹谷委員〉

所在地 東急東横線 東白楽駅から横浜駅周辺



- 〈事業者〉横浜市
- 〈実施設計〉創和エクステリア株式会社
- 〈実施設計〉株式会社並木設計
- 〈実施設計〉有限会社フィールド計画調査
- 〈実施設計〉株式会社クリエート
- 〈実施設計〉株式会社ランズ計画研究所
- 〈実施設計〉株式会社創和設計
- 〈施工者〉株式会社サカタのタネ
- 〈施工者〉横浜庭苑株式会社
- 〈施工者〉田野井造園株式会社
- 〈施工者〉奈良造園土木株式会社
- 〈施工者〉ワコー緑建株式会社
- 〈施工者〉相原造園土木株式会社
- 〈運営管理〉東横フラワー緑道運営管理委員会
- 〈運営管理〉東横フラワー緑道第一公園愛護会
- 〈運営管理〉東横フラワー緑道第二公園愛護会
- 〈運営管理〉東横フラワー緑道第三公園愛護会

～ 第6回 横浜・人・まち・デザイン賞 表彰式の様子 ～

「横浜・人・まち・デザイン賞」では表彰式を開催し、受賞者に表彰状と記念品をお渡ししています。写真は、平成25年5月に市長公舎で開催した「第6回横浜・人・まち・デザイン賞」表彰式の様子です。



受賞者のみなさん



表彰状の贈呈

これまでの受賞作品一覧

	地域まちづくり部門	まちなみ景観部門
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ●環境エネルギー館の整備・運営(東京ガス株式会社) ●横浜駅西口振興活動(横浜駅西口振興協議会) ●都心部を中心とした歴史を生かしたまちづくり啓発活動(横浜シティガイド協会) ●仲町台駅周辺まちづくり活動(仲町台商業振興会/仲町台駅前センター街づくり協定運営委員会/地域作業所「ワークアシスト仲町台」) ●横浜駅西口駅前再開発事業(横浜駅西口駅前再開発協議会) ●元町通りまちづくり活動(元町通り会) 	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜ワールドポーターズ、ナビオス横浜と運河パーク(中区新港町) ●山手111番館とローズガーデン(中区山手町) ●洗手亭(中区山下町) ●大原隧道(南区清水ヶ丘) ●横浜ベイサイドマリナー(金沢区白帆町) ●富岡川せせらぎ緑道(金沢区富岡西)
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ●鶴見西口オープンカフェの運営(鶴見西口オープンカフェ協議会) ●横浜弘明寺商店街のまちづくり活動(横浜弘明寺商店街協同組合) ●新横浜町内会のまちづくり活動(新横浜町内会) ●モザイクモール港北の建設と運営 (第一共同開発 株式会社/株式会社 モザイク開発) ●都筑民家園を巡る活動(都筑民家園愛護会) 	<ul style="list-style-type: none"> ●カトリック横浜司教館(中区山手町) ●横浜情報文化センターと横浜地方・簡易裁判所(中区日本大通) ●グランノア港北の丘(都筑区大丸町) ●辺瀾橋下流の水辺拠点(栄区上郷町) ●中丸家長屋門とその周辺(泉区新橋町)
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ●自然を生かした公園でのプレイパーク運営 (片倉うさぎ山公園遊び場管理運営委員会) ●東神奈川駅東口地区市街地再開発事業の実現 (東神奈川駅東口地区市街地再開発組合) ●商店街の空き店舗活用による地域コミュニティ活動 (西谷商栄会 井戸ばた倶楽部@nishiya) ●旭ジャズまつりの企画・運営(旭ジャズまつり実行委員会) ●横浜自然観察の森の案内・調査・環境管理活動(横浜自然観察の森友の会) ●都市防災の研究・提言・知識の普及活動 (特定非営利活動法人 都市防災研究会) 	<ul style="list-style-type: none"> ●日産自動車横浜工場ゲストホール・エンジン博物館(神奈川区宝町) ●横浜港大さん橋国際客船ターミナル(中区海岸通) ●日本郵船歴史博物館(中区海岸通) ●馬車道のガス灯(中区港町～本町) ●フェリス女学院中学校・高等学校1号館(中区山手町) ●マーマシのはら保育園(港北区篠原町) ●天王森泉公園(泉区和泉町)
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりのルールを作成(大口通地区まちづくり委員会) ●災害に強いまちづくり(西戸部二丁目第一自治会 わくわく倶楽部) ●障害者が生活しやすい環境づくり(横濱ジェントルタウン倶楽部) ●みんなに愛されるストリート(日本大通り活性化委員会) ●まちづくりの交流・情報発信拠点 (株式会社 イータウン/横浜港南台商店会/まちづくりフォーラム港南) ●いきいき、楽しく環境活動(関東学院大学 環境サークル HEP) 	<ul style="list-style-type: none"> ●旧バーナード邸(中区本牧元町) ●二代目横浜駅遺構(ロワール横濱レムナンツ)(西区高島) ●ZAIM(ザイム)(中区日本大通) ●横濱媽祖廟(中区山下町) ●荒井沢市民の森(栄区公田町) ●日本大通りとオープンカフェ(中区日本大通)
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ●鴨居原市民の森を憩いの森にする活動(鴨居原市民の森愛護会) ●野毛大道芸でまちおこし(野毛大道芸実行委員会) ●助け合いの精神で港南エリアを中心とした住民生活をサポート (さわやか港南) ●つづきのみんなで元気なまちづくり(特定非営利活動法人 I Love つづき) ●山下公園のコンビニエンスストアで子育て支援活動 (ハッピーローソン山下公園店) ●鶴見川流域での清掃・学習・人材育成活動 (特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ストロングビル(中区山下町) ●日ノ出スタジオ・黄金スタジオ(中区日ノ出町・中区黄金町) ●鶴見川河口干潟「貝殻浜」(鶴見区生麦5丁目) ●アメリカ山公園(中区山手町) ●はまみらいウォーク(西区高島2丁目～1丁目) ●元町ペットバー(中区元町)
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ●新治市民の森一帯の里山景観と生物多様性を守り育てる活動 (新治谷戸田を守る会/新治市民の森愛護会) ●初黄・日ノ出町地区のアートによる安全・安心のまちづくり (特定非営利活動法人 黄金町エリアマネジメントセンター) ●寺尾地区で身近なまちの暮らしを豊かにする活動 (寺尾地区福祉のまちづくり推進協議会) ●港南区の歴史を後世へ伝承する活動 (特定非営利活動法人 港南歴史協議会) ●高齢化が進む西柴を生き生きと暮らせる街にしたい (特定非営利活動法人 さくら茶屋にしは) ●六角橋商店街の新たな企画 空き店舗を活用したドッキリヤミ市場 (六角橋商店街連合会) ●下和泉地区での交通不便を解消 コミュニティバスの自主運営活動 (下和泉地区交通対策委員会) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ヨコハマアパートメント(西区西戸部町) ●防火帯建築を活用した吉田町のまちなみ(中区吉田町) ●日産グローバル本社NISSAN ウォーク・横浜三井ビルディング公開空地 (西区みなとみらい・西区高島1丁目) ●ザ・テラス/パークサイドカフェ(都筑区仲町台) ●BankART Studio NYK・創造空間 万国橋SOKO(中区海岸通) ●ラバンクド ロア(中区山下町) ●山手ライナー (神奈川中央交通11系統(保土ヶ谷駅～桜木町駅) 60系統(磯子駅～南区役所))

■地域まちづくり部門【横浜市都市整備局地域まちづくり課】

〒231-0017 横浜市中区港町 1-1 TEL: 045 (671) 2679 FAX: 045 (663) 8641

■まちなみ景観部門【横浜市都市整備局景観調整課】

〒231-0017 横浜市中区港町 1-1 TEL: 045 (671) 3470 FAX: 045 (663) 8641

